

# 令和7年度 名水小学校 学校関係者評価書

※評価基準 4:とてもそう思う 3:そう思う 2:あまり思わない 1:思わない

## 1 知育(かしこく)

	評価項目	評価	児童(6)	保護者(7)	教職員(7)	学校の自己評価(○成果 ●課題)	次年度の手立て	学校運営協議会委員・評価コメント
学習指導	1 学年の学習内容が定着して(高まって)いる。	4	3	2	1	○ 高学年の単元テスト(4教科)の到達率が93パーセントを超えており、これまでの個別最適な少人数指導の成果が表れていると考えられる。2年生児童は、図画工作科や国語科において感性豊かな作品をつくり、市内外で表彰を受けた。 ○ 指導力向上のために個人研修に取り組み、市の教育実践に全職員が応募することができた。 ● 少人数での学習が続き、主体的・対話的な学びに欠ける面が見られる。	・キュビナやミライシードの効果的な活用の仕方について共通理解を図り、知識・技能の習熟を図る。 ・対話場面での生成AIの活用、他校とのオンライン学習や交流学習の実施等、少人数のデメリットを解決する手立てを講じていく。	・少人数指導の成果が表れていることは大変よいことだと思う。AI活用やオンライン学習、交流学習は大変よいことだと思う。 ・読解力の部分。文章を読んで答えを導き出す作業が少し苦手な児童もいる。 ・小規模ならではの教育が行き届いている。
		3	2	4	2			
		2	1	1	0			
		1	0	0	1			
	2 昨年度よりも本を読む時間や機会が増えている。	4	2	1	1	○ 朝や放課後の読書の時間や読書ボランティアの方による読み聞かせ選書会等を教育課程に位置付けたことで、読書に親しむことができた。また、児童相互による読み聞かせや読書ビンゴ等の取組も読書の幅を広げる上で効果的であった。 ● 児童数に対して蔵書数は多いが、古く手に取られない本も増えてきている。児童の目に留まるような図書館レイアウトや手立てを考える必要がある。	・書架の購入及び職員作業として、図書室整理の時間を設ける。	・子どもに読んでもらいたい図書を図書館で借りて学校に持たせていた。 ・読書は幅広い教養を身に付けることに通じる。 ・冊数は少なくとも子どもが手に取りたくなるような魅力的な仕掛けをする。廃棄や閉架書庫にすることも考えられる。 ・感想を聞いてはめてあげる
		3	3	3	4			
		2	0	2	0			
		1	1	1	0			

## 2 徳育(やさしく)

児童理解	3 学校は、教育相談などをとおして、児童理解に努めている。	4	5	4	3	○ 心のアンケートを活用して毎月教育相談を実施することができた。また、養護教諭を特別な支援を要する児童のキーパーソンとして設定することで、学級担任以外に相談・支援できる環境を整えることができた。 ● 心のアンケートの内容や関係機関との連携、児童理解に係る研修の充実等を図っていく必要がある。	・年度当初の「いじめ防止基本方針」の確認の時間に心のアンケートについてもその内容や実施方法(いつでも相談できるシステムの確立)について見直しを行う。	・身近な方に「ありがとう」を伝える。大人同士がちゃんと言え環境づくりが大事。 ・学級担任以外に養護教諭に相談できることは大切だと思う。 ・子ども教室でもたまに気になる言動があるが、その都度話をして分かってもらえるようにしている。
		3	1	3	3			
		2	0	0	0			
		1	0	0	0			
思いやり	4 人(家族等)を助ける態度が身について(高まって)きている。	4	3	1	0	○ 全校朝会や給食後の時間に生徒指導主事が中心になり、幸動の価値付けを行ってきた。特に低学年においては「ぐんぐんレスキュー隊」を作り、学校内外問わず、自分たちができるお手伝いを探し、実践する姿が見られている。 ● 「自分でできることは自分ですること」が他者を助けることにもつながる。自立を目指した指導の在り方を探っていく。	・各教育活動の準備段階から、児童の負担過重に配慮しつつ、意図的・計画的に関わらせていくことで、責任感や自立の心を育む。	・ぐんぐんレスキュー隊とは素晴らしい。 ・ぐんぐんレスキュー隊が大活躍で地域にとって学校が身近な存在になったと思う。
		3	2	6	6			
		2	1	0	0			
		1	0	0	0			
感謝・礼儀	5 励ましや感謝の言葉を使う態度が身について(高まって)きている。	4	4	3	1	○ 教育目標を支えるキーワードとして「自分よし、相手よし、ふるさとよし」を掲げ、意識化を図ってきた。修学旅行では「相手よし」の具現化として「100回のありがとう」の実践を行い、進んで感謝の言葉を伝える姿が見られた。また3学期を「感謝のステージ」として各教育活動との関連付けを行った。 ● 地域の方々の温かい支援を「当たり前」と感じている面もある。家庭と連携して感謝の思いを育む必要がある。	・学校便りや学校ホームページ、新聞への記事投稿、マチコミメール等を活用して、地域の方々との交流や支援について保護者に積極的に情報発信をしていく。 ・ボランティア感謝集会等を計画し、感謝の思いをしっかりと伝える機会を設ける。	・感謝の気持ちを形にする取組も効果的かど。「ありがとうの花」等の取組も考えられる。 ・オアシス運動もいいのではないかな。
		3	1	3	5			
		2	0	1	0			
		1	1	0	0			
礼儀	6 お子さんは、「おはよう」「いただきます」等の家庭でのあいさつのほか、家庭外でもあいさつをしている。	4	5	5	2	○ 登校時には、校長や教頭が玄関前で子どもたちを出迎え、あいさつの言葉を交わしている。また、下校時は全職員で子どもたちを見送っている。学校内での挨拶の習慣は身に付いている。 ● 「気持ちのよい挨拶」や「会釈」については、その意義について考えさせ、幸動できるようにしていく必要がある。	・まずは大人が明るい挨拶を心掛けるために、学校・家庭・地域に学校便りや拡大運営協議会、学校行事等で啓発を行う。 ・会釈や挨拶ができた子を積極的に称賛し、価値付けを行う。	・一人一人に挨拶の言葉を交わすことが大事。 ・朝の立番では全ての児童が元気に挨拶してくれる。 ・子どもの声が聞こえない地域なので、積極的に近所の人に挨拶をしてほしい。 ・家庭ではしっかり挨拶ができています。
		3	0	0	4			
		2	0	1	0			
		1	1	1	0			

### 3 体育(たくましく)

健康 教育	7	「うがい・手洗い」の実践を含め、健康に関する望ましい態度や習慣が身に付いてきている。	4	4	3	1	<p>○ 正しい手洗い・うがいの方法の掲示やブルーライトを使用した自作の手洗いチェッカーの活用で、視覚的に自己の手洗いについてふり返りができた。さらにゲーム的な要素を取り入れたワークシートを活用した指導週間を設定することで、自主的に取り組む姿が見られた。</p> <p>● 身についた習慣やスキルが継続するよう、家庭と連携した取組や啓発を続けていく必要がある。</p> <p>● 平日でもゲームやSNS等の利用時間が長く、生活リズム(睡眠時間、朝食の摂取等)が整わない児童が数名見られる。</p>	<p>・うがい・手洗いは生涯を通して大切なスキルであるため、次年度も継続して習慣化するための手立てをとっていきたい。今年度は家庭と連携した取組ができなかったため、手洗い・うがいに限らず、生活習慣を身に付けるための家庭でも取り組める活動を取り入れていきたい。</p>	<p>・生活リズムを確立することは大切。</p> <p>・子ども教室でも外遊びの後は手洗い・うがいを促しているが、最近では自ら進んでやるようになってきている。</p> <p>・今後も家庭への働きかけが必要。</p>
			3	1	3	5			
			2	0	1	0			
			1	1	0	0			
体力 向上	8	体力が、向上したと感じる。	4	2	2	1	<p>○ 児童に体力テストの結果を伝え、次年度の目標設定の場をつくることで、自身の体力向上に対する意欲が高まるようになってきた。</p> <p>● 運動への取組について二極化傾向にある。家庭を巻き込んだ取組や運動の機会の提供等も考えられる。</p>	<p>・生活リズム週間等の取組内容に家族でふれあう運動等の紹介を行い、体力向上について啓発を行う。</p>	<p>・他の取組と同じように、ゲーム感覚で取り組めるようにしてはどうか。競争意欲を高めるメニューもよいかと思う。</p> <p>・少人数なので、団体競技ができない。運動が得意な児童はもの足りなく感じるかも。</p>
			3	3	3	5			
			2	1	1	0			
			1	0	1	0			
安全 意識	9	学校は、安全な教育環境づくりと児童の「危機回避意識」の向上に努めている。	4	5	4	1	<p>○ 学校の立地状況を考え、地震や津波を想定した避難訓練を想定を変えて年間3回実施した。非常用持ち出しバッグの中身を自分で確認する機会も設定することで、意識の向上を図った。</p> <p>● M8クラスの地震が起きた際に周囲がどのような状況になるか予想できている児童は少ない。発達段階に応じた具体的な指導の必要性もある。</p>	<p>・定期的な避難訓練に加え、「防災教育VR」等を使用して、視覚的に巨大地震発生時の状況について考えさせる機会を設ける。</p>	<p>・登下校時や休日に発災した場合の対処を地域と共に考える必要がある。</p> <p>・今後も避難訓練、防災教育を実施してほしい。</p>
			3	0	3	4			
			2	1	0	1			
			1	0	0	0			

### 4 連携(つなぐ)

地域 交流	10	地域のことを話題にしたり、地域のことを考える姿が見られるようになった。	4	4	2	3	<p>○ 気づきを促せば、地域の清掃活動など自分たちができることに取り組もうとする姿が見られた。</p> <p>● 地域の課題やよさについて、自分事として捉えることが十分にできていない面がある。</p>	<p>・拡大学校運営協議会に子どもたちも参加することで、地域の課題やよさを自分事として共有できるようにする。</p>	<p>・ぐんぐんレスキュー隊や遠足時の海岸清掃等、地域を大切にする姿を見ることができた。</p> <p>・清掃活動を通して地域のよさや課題など子どもが気付くことがある。</p>
			3	1	3	3			
			2	0	2	0			
			1	1	0	0			
人材 活用	11	学校は、地域人材や地域の素材等を授業に取り入れている。	4	4	5	5	<p>○ 例年行っていた体験活動を総合的な学習時間として実施することで、活動の目的を明確にし、学びが深まるようにした。</p> <p>● 複式学級であるため、総合的な学習の時間の年間指導計画を見直し、学習内容を整理する必要がある。</p>	<p>・職員研修の時間を設け、総合的な学習の時間の年間指導計画を見直し、学習内容を整理する。</p>	<p>・干物作り、メヒカリ料理、魚釣り、動物園の園長さんの出前授業など地域の素材を生かした授業ができた。</p> <p>・複式での学習指導は大変だと思うが、よろしくお願ひしたい。</p>
			3	1	2	1			
			2	1	0	0			
			1	0	0	0			
情報 発信	12	学校は、学校参観や各種便り、HP等で家庭や地域へ積極的な情報の発信をしている。	4	5	5	3	<p>○ 校長が中心となり、学校HPの更新を毎日行った。学校の様子がよく分かると保護者の反応も良好であった。</p> <p>○ 学校便りを毎月各地区に配付し、学校の教育活動について地域への発信を行った。</p> <p>○ 教頭が新聞投稿を積極的に行い、学校の教育活動について周知を図った。</p>	<p>・引き続き、個人情報や肖像権に配慮した情報発信を行う。</p>	<p>・学校ホームページが毎日更新されていて学校の様子がよく分かる。</p> <p>・新聞への投稿も地域の方の目に留まり、話題にあがっている。</p> <p>・名水小便りを毎月配付していただき、学校の様子が大変分かりやすいと思う。</p>
			3	1	2	1			
			2	0	0	1			
			1	0	0	1			

#### 校長所見(次年度の方向性について)

本校の教育目標「心身ともにたくましく、創造性豊かに考え、生き生きと学び続ける児童の育成」を具現化するため、本年度のキーワードを「自分よし 相手よし ふるさとよし」とし、児童や職員に意識させ実践してきた。本年度は昨年度の評価を踏まえて「4連携(つなぐ)」を意識し、年間の行事や教科等を関連させた活動や拡大大学校運営協議会で出された各地区の要望をもとに、ふるさとのためにできることを児童に考えさせた。2年生は「ぐんぐんレスキュー隊」として地域のために様々な活動を行い、5・6年生は地域の課題やよさを意識した学習を展開し、「ふるさとよし」につながる幸動を行った。次年度は「発気よい」をキーワードの頭に加え、「全力でやる気、元気、根気を発して」、「自分よし 相手よし ふるさとよし」で幸動する児童の育成を全職員の協働により目指す。

